

# 相生山緑地 オアシスの森くらぶ ニューズレター23号 2005.1.15発行

発行 オアシスの森くらぶ  
編集委員会  
発行人 大館 学  
編集人 近藤 真史

## 新年あけまして おめでとうございませう



本年も相生山緑地、森くらぶ共々  
よろしくお願ひします

### 12月定例活動 「年末恒例！門松づくりと梅の剪定」

中島 己治男

12月25日（土）は快晴で暖かく、多数の方々出席のもと今年最後の定例会「門松づくり」を実施しました。

まず全員で門松の材料の竹を切ったり、飾り用の松、南天、熊笹、梅、千両、万両等を取りに行きました。

設置場所は例年と同じ山根口で、今までは門松の設置台から手作りしていたのですが、今回は伊藤さん夫妻の提案で大きな木製の植木鉢を台にし、藁を巻いて使用したため、見栄えも良く

作業時間も短くなり、昼前には、2.3m位の門松が完成しました。



続いて持ち帰り用のミニ門松作りで、皆様色とりどりに飾り付けを楽しみま

した。

昼食後は、第二トンボ池付近の梅の剪定を実施し、一日楽しく作業しました。



皆様ご協力ありがとうございました。

## 『天白・もりのフォーラム シンポジウム』

永田 修二

昨年、11月23日に天白文化小劇場で天白・もりのフォーラムシンポジウム「みちかな自然が学校だ！」が開催されました。

このシンポジウムは天白区区制30周年記念行事の1つとして行われたものです。

天白・もりのフォーラムは、天白区で主に自然を相手に活動している市民団体から成るネットワークです。われわれ「相生山オアシスの森くらぶ」をはじめ「平針探鳥会」「天白プレーパークの会」「東山自然観察会」など10団体が構成され、行政とパートナーシップを組んで活動しています。



シンポジウム当日のプログラムは、基調講演者としてジョン・ギャスライト氏を招きツリークライミングを通して人と自然の結びつきなどを語ってもらいました。

その後、各団体の紹介に続いて、国連地域開発センター研究員の吉村輝彦氏のコーディネーターにより「次世代

にどんな自然を残すのか」と題してパネルディスカッションに移りました。



パネラーとして森くらぶからは、眞弓さんが参加されました。相生山を始めとして天白区内の自然と人との関わりについて活発な意見が展開されました。

聴衆は、やはり年配の方が多く、もう少し若い人たちにも来てほしかったなと思いました。